

水土里レポート

投稿月日	令和7年9月20日
タイトル	四区町環境保全会による田んぼの生き物調査等
水土里レポーター名	水土里ネット那須野ヶ原 専務理事 星野恵美子

令和7年7月20日午前中に、四区町環境保全会による田んぼの学校が開校され、多くの方が参加される中じゃがいも掘りと田んぼの生き物調査が行われました。

まず、じゃがいも掘りを。品種は「男爵」と「とうや」の2種類で、畝の中に埋まったじゃがいもを1つずつ手で掘っていきました。暑い日差しが降り注ぐ中、皆さん一生懸命に作業したかいもあり、男爵が201kg、とうやが173kgと沢山収穫することが出来ました。

つぎに、田んぼの生き物調査を行いました。アカガエル、アオガエル、トウキョウダルマガエルの役割や特徴について確認し、実際に田んぼの周りを1周して、どの位の数が生息しているかをそれぞれ調べました。その後、田んぼに隣接した池でメダカやドジョウ、ヤゴなどの水生生物を捕まえました。中にはという準絶滅危惧種に指定されている希少な生き物も多数おり、那須野ヶ原の自然環境の豊かさを再認識しました。

最後に、捕まえた生き物たちは池に戻して今回の調査は終了となりました。

作業終了後は、今回掘ったじゃがいもとおにぎりが配られ、解散となりました。



農家人口の減少に伴って、こうした活動が徐々に少なくなってしまった那須野ヶ原ですが、今回の調査によって準絶滅危惧種に指定されている「コオイムシ」が大量に発見されたことに伴い、ボランティア活動団体などを引き込み、継続していく必要性を強く感じました。

